



BOKKSU

# Bokksu株式会社

D2Cスタートアップによる顧客データを活用した海外向け菓子商品の開発・実証事業

## 本事業の目的・背景

■本事業は、国内中小規模菓子メーカーと、お菓子のサブスクリプションサービスプロバイダーである当社が提携をし、日本の伝統的なお菓子を米国へ輸出することで、地域菓子産業活性化のモデルケースを提示することが目的である。

■日本は人口減少により2050年までに食品支出が大幅減少されることが予測されている。また昨今のパンデミックにおいては、特に土産菓子市場に大きな打撃を与えた。

■しかし日本食品の国際的な人気は依然絶大で、中でも菓子類輸出の期待は大きい。そのためには米国においてはFDA等を遵守など製品の品質・安全性を確保が重要である。同時に人々の「食」における嗜好性の把握もマーケティング的に非常に重要である

■当社は4万人の会員と年間40万個の出荷実績をもち、これまでの事業経験から培われた分析力とナレッジにより、規制対応とマーケティングアプローチの両面から国内メーカーをサポートし、米国市場への進出を実現化させるのである。

### 製品仕様 (イメージ・アイデア)

- 1) サイズ
  - a) 1個10g
  - b) 1袋8個入り
- 2) 包装形態
  - a) スタンド袋1d
  - b) スタンド袋1袋につき乾燥剤1袋使用
- 3) 賞味期限
  - a) 最低180日間
- 4) 成分
  - a) FDA準拠
  - b) 天然成分
  - c) ベジタリアン、グルテンフリー、乳製品不使用



## 実施内容

■7月には、製造委託メーカー選定に着手し、市場のニーズを鑑みながら米国本社と日本での試作、商品仕様の検討を実施した。特に、製造委託メーカーの選定には、柔軟で機敏なアプローチが可能かどうかを重視した。8月は、製造委託メーカーの再策定、試作サンプルの米国への送付、試食会の実施などを行い、「秦製菓」を製造パートナーとして選定し、多様なフレーバーのお餅を作ることに決定した。

■9月からは、商品仕様検討、流通先のリサーチに注力し、比較的高級志向の小売店をターゲットとした。この期間中、製品のサイズや包装資材の選定にも取り組んだ。10月以降、脱酸素剤に関する規制やFDAのルールに則った新フレーバーの開発、長期保存試験など、製造から品質管理に至るまでの詳細なプランニングと対応策の検討が行われた。特に、脱酸素剤の規制や食品の長期保存に関する挑戦は、プロジェクトの進行に大きな影響を与えた。

■全体を通して、このプロジェクトは製造パートナーの選定、製品開発、品質管理、流通戦略の策定に至るまで、多岐にわたる課題に対処しながら、製品の市場導入に向けて着実に進めることができた。市場ニーズの掌握と柔軟で機敏な製造アプローチ、そして商品に関する規制への対応が成功の鍵である。



BOKKSU

# Bokksu株式会社

D2Cスタートアップによる顧客データを活用した海外向け菓子商品の開発・実証事業

## 検証結果（成果）

■海外向け製品開発に伴う技術の進化や品質管理の向上は、結果として国内の生産プロセスにも好影響を与え、サプライチェーン全体の強化を促すと考えられ、ひいては中小メーカーが存在する地域経済への活性化につながるものと確信する。

■具体的な成果としては、210日の長期保管菌検査で陰性結果を得たことで食品（お餅）の長期賞味期限が実現されたことや、新フレーバーの開発においては、当社がもつ顧客の嗜好に関するデータを取り入れることで、ゴマ以外のフレーバー（ゆず、イチゴ、）の試作品も製造することができた。このことは製品の品質とアメリカ市場のニーズを取り入れた前向きな取り組みであり、大きな成果だったと位置づけられる。

■また海外市場では独自の規制が存在する。例えば米国における脱酸素剤等に使用されるPFAS材質に関する規制だが、すでに特定の11州で実施されていることが判明した。このことは商品や乾燥剤に使用する資材の選定に大きな影響を及ぼす。しかしこの事業の取り組みにおいては、製品が直接脱酸素剤に触れないようにするための包装方法を具体的に考案することができ、大きな成果を残すことができた。

## 検証結果（課題）・解決策

■FDAの厳格な食品規制への対応と、消費者の好みに合致する製品開発を同時に達成することであった。具体的には、禁止着色料の使用回避、脱酸素剤に関する新規規制対応、長期保存の実現が必達事項であったが、製造委託先選定、製品テイストの再考、包装資材の選択といった複数の対策を講じた。

■残るは、突如変更される規制を適宜キャッチし、如何に速やかに対策を講じられるかが課題である。日本国内の中小メーカーが単独で実施するにはハードルが高く、弊社のようなノウハウをもつ会社の存在意義が今後もクローズアップされるものと考えている。

## 今後の活動予定

■2024年3月から製造を開始する予定。当社ECサイトでのテスト販売のあと量産体制を構築したのち、5月頃を目処に米国中堅小売チェーンへの流通を目指す。

■提携先のメーカーに対しては、製品開発から量産体制構築、規制対応まで引き続き支援を行う。同時に、市場の需要に応える新フレーバーの開発を進め、商品バリエーションを増やす事で収益増を図る。